



ラオス・さいたま市水道協力30周年記念 駐日ラオス大使館表敬訪問 さいたま市民ラオス友好協会が民間外交

3月22日、NPO-SCNさいたま市民ラオス友好協会は、ラオス人民民主共和国の首都ビエンチャンと、さいたま市の水道協力30周年を祝い、駐日ラオス大使館(東京都港区西麻布)を表敬訪問しました。

【大使館側の出席者】

特命全権大使 フォンサムット アンラワン 閣下
参事官 ソンポン ルアンタコン 氏
書記官(通訳)スリデート セングマニー 氏

【協会側の出席者】

顧問 高木功介(埼玉県議)、顧問 谷中 信人(さいたま市議)、会長 西森勢、理事 戸井田洋、参与 井上豪

西森会長は、大使閣下に表敬訪問受け入れの謝意を示した後、本協会が平成24年(2012年)に、皇太子徳仁親王(今上天皇)ラオス初訪問と首都ビエンチャンとさいたま市の水道協力20周年を記念して設立し、6つの方針(*)を掲げて活動を推進していることを伝えました。

※さいたま市民ラオス友好協会6つの方針

- ①ラオスとさいたま市との観光・文化・芸術交流を促進
- ②ラオスの観光・文化・芸術を市民に広報
- ③ラオスとさいたま市の水道事業協力を市民の側から支援
- ④ラオスへの旅行を市民に推奨
- ⑤ラオスの首都ビエンチャン市とさいたま市との姉妹都市提携を推進
- ⑥在日ラオス人およびラオス人留学生と交流し、日本・さいたま市での生活支援

大使閣下はこの話しを受け、本協会のこれまでの活動に謝意を示しました。

本協会の出席者全員の自己紹介のあと、二人の顧問がそれぞれ、議会でのラオスに関わる活動報告をしました。

谷中 信人 顧問より

- ①ラオスとのオンライン国際交流
- ②さいたま市の水道協力30周年イベントの実現
- ③ラオスフェスティバルへのさいたま市の協賛

以上の三点を市長へ要望中。



ラオスと日本・さいたま市との友好団結の花が咲きました。



この他、(一社)日本有機農業普及協会(JOFA)の農業プロジェクト(生産性向上)について、情報提供しました。

高木功介顧問より、「埼玉県議会日本・ラオス友好議員連盟」の創設の検討段階であることを報告。

最後に特命全権大使 フォンサムット アンラワン閣下は、日本とラオスの展望を二点、協会に伝えました。

①日本に留学する学生たちへに奨学金の充実を(官民間問わず)日本に期待をしたい。

②ラオス人民民主共和国は土地が多く農業に向いているため、本国にオーガニック農法を積極的に導入したい。

(文責:国際局長 西森勢、写真提供:井上豪)

平成4年(1992年)からの、ラオスとさいたま市(旧浦和市)による水道協力の一滴の水は、30年を経て大きな清流となり、ラオス国民の生活に役立っています。



水道局の国際協力活動について→

県民公論社は、さいたま市と共に、市民満足度の向上とSDGsの達成に向けて取り組む「CS・SDGsパートナーズ共同宣言」を締結。

本紙はSDGs推進の環境適正印刷方式で作成されています。



清水勇人 市長

さいたま市の新たな局面を拓く挑戦

令和4年2月1日開会の、さいたま市議会2月定例会で、清水勇人市長から、4年度の市政運営に対する市長の基本的な考え方や、主要な施策などについての説明である「施政方針」が発表されました。

施政方針の主な内容

- 1 はじめに ・20年間の振り返り ・成果に対する市内外からの評価
- 2 さいたま市の新時代に向けて
 - 感染症を克服し、真に災害に強いレジリエントシティ*1を目指す
 - ポストコロナ*2の新たなさいたま市の創造
 - 誰一人取り残さず、誰もが住みやすく持続可能な地域社会の実現
 - 新たな時代に対応する市役所の創造
- 3 令和4年度予算案の概要【難局を乗り越え、さいたま市のシンカに取り組む予算】
- 4-1 令和4年度の主な事業
 - 新型コロナウイルス感染症と自然災害への対策の強化
 - ポストコロナを見据えたさいたまらしさの深化
 - 誰一人取り残さない包括的な支援の充実
 - 市役所DX*3の推進と公民学共創*4
- 4-2 令和4年度の関連事業
 - ① 先進技術で豊かな自然と共存する環境未来都市の創造
 - ② 一人ひとりが「健幸」を実感できるスマートウェルネスシティ*5の創造
 - ③ 笑顔あふれる日本一のスポーツ先進都市の創造
 - ④ 子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市の創造
 - ⑤ ヒト・モノ・情報を呼び込み、東日本の未来を創る対流拠点都市の創造
 - ⑥ 子どもから高齢者まで、あらゆる世代が輝けるまちづくり
 - ⑦ 激動する新時代に「未来技術」で躍動する地域産業づくり
 - ⑧ 災害に強く、市民と共につくる安全・安心なまちづくり
 - ⑨ 環境に配慮したサステナブル*6で快適な暮らしの実現
 - ⑩ 絆で支え合い、誰もが自分らしく暮らせるまちづくり
 - ⑪ 質の高い都市経営の実現

5 結び

未来目標=「上質な生活都市」「東日本*7の中核都市」
基本姿勢=「責任と共感・共汗」「徹底した現場主義」「公平・公正・開かれた市政」
皆様と力を合わせ、さいたま市の新たな局面を拓く挑戦に全身全霊で臨む。



コロンちゃんのかいせつ
県民公論のマスコット
コロンちゃん
が解説します。

*1.「レジリエントシティ」=自然災害や、人口減少などの社会問題に素早く対応、回復させる強靱で柔軟な即応力がある都市。

*2.「ポストコロナ」=コロナ感染症まん延(コロナ禍)が終息した後。

*3.「市役所DX」=デジタル技術の導入により、①行政サービスを受けるため市民の負担を減らす。②市民の生活環境を、日々豊かで自由なものにしていく。③効率的で職員満足度も高い行政の実現。④時代の変化や新たな危機にも迅速に対応。

*4.「公民学共創」=行政と民間、地域の大学が共に連携して、より効率的で質の高い行政サービスの提供を創出して実行する。

*5.「スマートウェルネスシティ」=住むだけで健康で幸せ=「健幸」になれる都市。

*6.「サステナブル」=人間・社会・地球環境の継続性ある発展。

*7.「東日本」=北海道、東北、上信越、北陸方面。

令和4年2月定例会での質問

議長：島崎 豊 副議長：松下 壮一

代表質問＝議会内で政治的立場や思想信条が同じ議員の集まりである「会派」を代表して、市政全般について質問すること。
一般質問＝議員の調査・研究・地域活動等から見出された各種の市政問題点を提起する、議員の見識と実力が問われる質問。

本紙では質問の一部を抜粋しています。
 会派名は質問時の名称です。

代表質問 2番2月7日 民主改革

東西交通大宮ルート

Q【三神 尊志】 市内中央部東西の移動手段として東西交通大宮ルートの早期整備を。
A【小川 副市長】 東西交通大宮ルートは、大宮駅周辺地区と浦和美園地区を結び、集約・ネットワーク型都市構想を支えるアクセシビリティの高い交通体系の一翼を担うものと考えている。本市としては、新たなライフスタイルの定着など、社会経済情勢の変化や、首都高速道路埼玉新都心線の延伸の検討状況などを踏まえつつ、東西交通専門部会において、積極的に検討を進める。地下鉄7号線についても、社会経済情勢の変化や最近の動向、新たな技術の発展などを注視しながらしっかりと取り組む。

代表質問 5番2月8日 さいたま自民党

漫画会館

Q【鶴崎 敏康】 漫画会館*は、今後どのようにしていこうと考えているか。
A【高橋 副市長】 漫画会館では、日本近代漫画の先駆者である北沢楽天に関する資料収集や工夫を凝らした収蔵品展のほか、魅力ある現代漫画をテーマとした企画漫画展を開催している。また、国内外から広く漫画作品を公募する「北沢楽天漫画大賞」や子ども向けの漫画教室などを開き、本市の漫画文化の振興に努めている。今後、本市の地域資源である「漫画」の魅力を広く発信する。
 *さいたま市立漫画会館→

代表質問 6番2月8日 さいたま自民党

川越線複線化

Q【稲川 智美】 川越線複線化について、今回を逃すと、永遠に実現しないのではないかと危惧する。
A【小川 副市長】 市としては、JR川越線日進駅以西の複線化、及び防災上の観点から、現在進めている荒川第二・三調節池の早期供用、いずれも大変重要なものと考えている。JR東日本では、「将来、利用人員が増えたときには、複線化の検討の可能性はある」との見解を示している。本市としては、将来の複線化実現に向け、沿線を進めている土地地区画整備事業をしっかりと推進、定住人口の増加を図り、JRに対し粘り強く複線化を求める。

代表質問 1番2月7日 民主改革

GIGAスクール

Q【高野 秀樹】 「さいたま市GIGAスクール構想」*について、デジタルの持つ危険性を配慮すべき。
A【教育長】 キーとなるのが、デジタルのもつ利便性や危険性を十分に理解しつつ、適切な活用方法を自律的に判断し、安心安全に利用していく能力、情報活用能力をつけていくことだと考える。子どもたちに新たな時代を生きるために必要な資質・能力を確実に育成していくために、「さいたま市GIGAスクール構想」の健全な推進を目指す。
 *さいたま市GIGAスクールさいたまモデル実現に向けて→

代表質問 3番2月7日 民主改革

ヤングケアラー

Q【西山 幸代】 ヤングケアラー支援の強化について、支援策・相談体制整備について。
A【市長】 令和4年度から10区へ設置する子ども家庭総合支援拠点が、まず最初の窓口となり、関係機関による支援に繋げることができるよう、相談支援体制を整備する。
A【教育長】 令和3年6月にヤングケアラーに関するアンケート調査を、市立中学校・中等教育学校・高等学校の全生徒を対象に実施。調査結果を受けヤングケアラーと思われる1,287人の生徒一人ひとりに対し、各学校で面談を実施した。
 *ヤングケアラーとは→

代表質問 5番2月8日 さいたま自民党

岩槻城址公園

Q【江原 大輔】 岩槻城址公園に隣接する人形博物館予定地の有効活用検討状況は。
A【高橋 副市長】 岩槻城址公園の隣接地においては、さいたま商工会議所から観光資源として岩槻城を復元し、城下町の歴史を後世に伝えてほしいという要望を受け、平成30年11月には、同団体から城下町構想が提出されたので、現在検討を行っている。
Q 建設着工するまでに市民に有効利用してもらおうのが市民のためと考える。
A ご提案いただいた件も含め、今後、所管で検討する。

代表質問 7番2月8日 公明党

さいたま国際芸術祭

Q【上三 信彰】 さいたま国際芸術祭*について、教育委員会と連携して児童生徒参加型の企画を実施すべき。
A【市長】 未来を担う子どもたちの夢や希望、感動につながるような事業を企画し、より多くの児童・生徒に参加いただけるよう教育委員会と協議を進める。
 *第3回さいたま国際芸術祭 さいたま市政令市移行20周年記念会期＝令和5(2023)年10月7日～12月10日、全65日間(予定) 会場＝市民会館おおみや(RaiBoC Hall)、浦和駅周辺、市内文化施設等
 第3回さいたま国際芸術祭→

令和四年二月さいたま市議会定例会代表質問特集

注目質問・答弁抜粋、要約(文責 本紙) *詳しくはQRコードでご覧になれます

代表質問 8番2月9日 公明党

SDGs

Q【小森 谷優】 SDGsの推進について、公共施設への太陽光発電設備等の積極的導入、旧型でエネルギー効率の悪い電気機器から省エネ機器への転換を推進すべき。
A【小川 副市長】 再エネ設備等の公共施設への導入については、廃棄物発電の活用とともに重要な取り組みと考える。現在、最終処分場跡地等でのメガソーラー設備の設置や、市立学校や公民館にソーラーパネルを設置している。今後、他の公共施設への設置についても、積極的に取り組む。公共施設の新築・回収や設備更新の際には省エネ型設備や再エネを積極的に導入、SDGsの視点で推進する。

代表質問 10番2月9日 日本共産党

生活困窮者対応

Q【竹腰 連】 生活困窮者への窓口対応について、年末年始臨時窓口の対応人数、相談内容の特徴などの実績と課題について。
A【高橋 副市長】 年末年始期間における相談実績は21件。相談内容は、宿泊施設の利用のほか、食料の提供、生活保護に関する相談が寄せられた。課題は、支援を必要とする方への周知方法と捉えている。特に、一時生活支援事業は、年末年始に限らず、一年を通して実施していることを多くの方に知っていただくことで、深刻な困窮状況に陥る前に支援できるよう今後も努める。

代表質問 9番2月9日 日本共産党

くらし応援の予算

Q【神田 義行】 予算のわずか1.4%を見直すだけで、市民の暮らしの実態と願いにさらにこたえることができるが、市長の見解は。
A【市長】 ご提案いただいた、各種基金の大幅な取崩し等による新型コロナウイルス感染症対策の拡充や国民健康保険税等の負担の軽減を図る予算の組替え提案については、健全な財政運営の観点や適正な受益者負担の観点等から、長期的なものを含め、多くの課題を抱えていると考える。新型コロナウイルス感染症対策については、ワクチンの追加接種を迅速確実に進め、自宅療養者に対する医療提供体制を強化する。

代表質問 11番2月9日 自民党市議団

旧浦和市の連携

Q【青羽 健仁】 旧浦和市の4区が連携し、大宮、岩槻、与野とも連携すればさいたま市の発展につながると思うが、見解は。
A【市長】 総合振興計画*の中で、「各区の特性と将来像」として、本市の全10区のそれぞれの区の将来像や、将来像を実現するためのまちづくりのポイントを位置付けている。10区それぞれテーマをもって、それぞれの地域にあった、地域の特性を生かしたまちづくりをしていこう、それを強化していこうと考えている。
 *2030さいたま輝く未来と希望(ゆめ)のまちプラン→

ウクライナ友好協会ができました！埼玉県初

さいたま市内のNPOが「さいたま市民ウクライナ友好協会(佐々木 譲会長、浦和区)」を設立、さいたま観光国際協会に加盟しました。協会では当面、行政と協働で次の取り組みを開始します。①本市在住ウクライナ人の生活支援と激励、②ウクライナ避難民の本市での積極的受け入れ、③ウクライナと本市との友好親善民間外交。同会では設立を記念して、会長の佐々木 譲氏が作詞、会員の小林保二氏が作曲・編曲したウクライナ応援歌「ここに幸あれ」を発表しました。 **ご視聴→**

ウクライナ応援歌
ここに幸あれ

作詞 小林保二
作曲 とだじょう

一 青空お日さま 黄金の麦が
二 ドナウの流れ 平和のしるし
三 正義われらと 地球は認め

愛の女神の微笑みで
豊かな人生 ひまわり咲いて

キーウで咲いたロシアの文化

天の恵みの芸術音楽 大聖堂

ウクライナ応援歌
ここに幸あれ

作詞 小林保二
作曲 とだじょう

Japanese Saitama Citizen and UKRAINE Friendship association